青森県　グループホーム和の家なごみ　　平成19年12月14日

［認知症対応型共同生活介護用］

1． 評 価 結 果 概 要 表

作成日 平成19年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	272500851
法人名	社会福祉法人和森会
事業所名	グループホーム和の家なごみ
所在地 （電話番号）	〒039-2404　青森県上北郡東北町上北北二丁目３３－３１５ （電　話） 0176-58-1113

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822　青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 9月 18日	評価確定日	平成 19年 12月 14日

【情報提供票より】（平成 19年 8月 1日事業所記入）

（1） 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 13年 4月 1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	13 人	常勤 11 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.8 人

（2） 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 階 ～ 1 階部分

（3） 利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	28,000 円	その他の経費（月額）	10,000～冬季15,000 円
敷　　金	有（ 円）　(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（ 円） (無)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 円	昼食	円
	夕食 円	おやつ	円
	または1日当たり 900 円		

（4） 利用者の概要（ 8月 1日現在）

利用者人数		9 名	男性 2 名	女性	7 名
要介護1		0 名		要介護2	4 名
要介護3		2 名		要介護4	2 名
要介護5		1 名		要支援2	0 名
年齢	平均	88 歳	最低 81 歳	最高	99 歳

（5） 協力医療機関

協力医療機関名	工藤医院･工藤医院歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物が和風作りで落ち着いた雰囲気である。全職員が利用者一人ひとりを尊重し、家庭の暮らしの延長として支援を行うことを大切にしてケアに取り組んでいる。温もりのある心地よさが感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回は要改善点なし。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

全職員で自己評価に取り組み、職員間で協議している。また外部評価に対して研修等行い、ケアの質の向上に努めている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

事業計画･事業報告及び地域の情報交換、また率直な意見交換がなされており、それをケアの質の向上につなげるよう努めている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映（関連項目：外部10，11）

常に本人や家族の思いや願いを聞く･受け止める姿勢を心がけており、家族からの意見や苦情があった場合は、管理者、職員と話し合いの場を持ち運営に反映させている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

ホーム周辺は田園･住宅地であり、地域の方々が気軽に立ち寄れるよう散歩での挨拶、声がけを心掛けており、また、施設行事への招待、町内行事への積極的な参加により地域への連携、関わりを強くしている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実(実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容(すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのかかわりの中でその人らしく、家庭の暮らしの延長の支援が出来るよう理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーテングや毎月の会議等において、管理者と全職員で話し合いが持たれ、実践に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	行事等には積極的に参加するよう努めており、また町の催し等に作品の出展等も行っており、地域との交流が図られている。地域貢献の一環として認知症教室を開催している。また散歩の際は、近所の方々と挨拶を交わし、気軽に遊びに来れるように働きかけている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には全職員で取り組んでおり、ケアの質の向上に努めている。また、外部評価について外部、内部研修等を行い、業務に活かすように取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において、事業計画・事業報告がなされ、また、地域の情報交換、サービスへの意見交換が行われ、サービスの向上に取り組んでいる。また事前に意見を取り寄せたり、結果を出席者始め欠席者等にも知らせている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の介護保険運営協議会や福祉関係者懇談会等に参加し、町との連携を図り、他の事業所との懇親を深め、また包括ケア会議を実施し、サービス向上に取り組んでいる。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、地域福祉権利擁護や成年後見制度についての外部研修をたびたび受講し、その内容を内部研修で行い、全職員が学ぶ機会を持ち、理解を深めるように取り組んでいる。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修の受講、内部研修の実施で虐待の防止や関連法について全職員が学び、また、マニュアルも整備されている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、本人と家族に充分説明し、希望をうかがったり、質問を確認しながら、理解を得た上で行っている。また解約時も、本人と家族とホーム側は話し合い、納得された上で解約となっている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、便りを発行し、一人ひとりのコーナーを設け家族に便りを通してメッセージを送っている。また、面会時には、生活の様子、金銭管理の状況説明を行ったり、職員の異動等の報告、特に新職員については、必ず紹介をし、不安を与えないよう配慮している。変わった事があった場合は、すぐに家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族との交流を通し、本人の願いや家族の思いを受け止めるよう努めている。年に1回アンケートを実施し、運営やケアに活かしている。また、家族等から意見があった場合、管理者と職員で話し合いの場を持ち運営に反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員の異動は、必要最小限に抑えている。また併設施設の職員が夜勤等に関わり、馴染みの関係を築くことで、異動等による利用者のダメージを防ぐよう、体制作りがなされている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらﾄﾚｰﾆﾝｸﾞしていくことを進めている	毎年、研修計画を立て外部研修に参加し、研修報告はパソコンを活用し、全職員が閲覧出来るようになっていると共に内部研修も行っている。また、毎月の会議においても研修会を開催し、ロールプレイや演習等を行い職員の育成に努めている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ﾈｯﾄﾜｰｸづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加や同業者との懇親会等で交流を深めると共にお互い訪問し合い意見交換や勉強会等を通しサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の情報収集時には、職員と利用者間との安心感が得られるよう十分な配慮をしている。また他利用者との交流が図られるよう環境作りに努めると共に事前の見学や入居時、数日家族に一緒に泊まってもらう等、ケースに応じて対応している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるということを全職員が共有しており、あらゆる場面で教えてもらう事が多く、入居者が中心になるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活に対する生きがいや思いの把握に努め、困難な場合でも表情や仕草等から把握するようにしている。また変化が見られた場合は、フェイスシートへ記録している。時には家族から助言を聞くようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族とのかかわりの中で思いや意見をうかがい、それを全職員が共有し、一人ひとりに沿った介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の健康状態、生活機能、認知症の状態に変化があった際は、家族・医療機関に相談し、看護、介護職員と協議し、現状に即した介護計画の見直し、作成を行っている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院等の支援は、柔軟に行っており、また、外泊支援にも努めている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人･家族の希望を大切にし、個々のかかりつけ医を持ち、協力医の場合では、定期通院、往診の協力体制が出来ており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人･家族へ状態報告を十分に行い、意向を書面で確認し、職員は方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1)一人ひとりの尊重**					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めており、また、研修会等で個人情報保護法について学ぶ機会を設けている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や生活リズムに配慮しながら、一人ひとりの希望を優先し、個人を尊重したケアに努めている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の献立は、利用者と相談し決めるようにしており、調理等は一緒に行い、得意な部分を見出し発揮できるよう支援している。また、スタッフのうち最低1名は、利用者と一緒に食事をするようにしている。	○	より明るい雰囲気をつくり、食事が楽しみなものとなるよう、今後の取り組みに期待したい。
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況、希望に合わせて入浴出来る様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、得意分野を活かせるような場面、環境作りを行い、利用者が楽しく生活出来る様支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、買い物に出かけるようにしており、また畑もあるので天気の良い日は畑に出かけたり、散歩をしたりしている。テラスを設置しており、昼食やおやつを野外で楽しむ機会もある。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修やマニュアルで身体拘束についての理解を深め、利用者の尊厳を第一に考え身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りや工夫等により、日中は鍵をかけずに自由な生活が送れよう支援している。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成しており、年2回の訓練（日中総合訓練・夜間想定訓練）を実施している。また、地域との協力体制も十分に図られている。		
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、職員が情報を共有し必要な水分・栄養が確保出来るようにしている。栄養バランスに関しては、個々に合った工夫を取り入れながら併設施設の管理栄養士に相談しながら対応している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	施設独自の感染症マニュアルをもとに内部研修を行い、予防の対策を日々行っている。また、流行時期には、情報をパソコンで閲覧出来るようにし職員が情報を共有している。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に和風の作りになっており、落ち着いた雰囲気であり、照明器具も工夫されており、心地良い明るさを保つ様心掛けている。共有空間には季節に合せて花や装飾が飾られている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れた家具や日常品を準備し、これまで生活してきた環境のように過ごせるように配慮されている。		

※ ░ は、重点項目。